

2

予防接種を 上手に受けるために

子どもたちがワクチンで防げる病気（V P D）にかからなくて済むように予防接種を行います。

熊本市より配布される「予防接種と子どもの健康」をよくお読みになり、予防接種のこと、V P Dのことをよく理解し、積極的に予防接種を受けましょう。かかりつけの小児科医と相談のうえ、接種スケジュールを立てましょう。

(1)予防接種にはどのようなものがあるでしょうか

予防接種法に対象疾病、対象者、接種期間などが定められた「定期接種」と定められていない「任意接種」があります。「定期接種」には、小児用肺炎球菌、B型肝炎、B C G、五種混合、二種混合、日本脳炎、麻しん風しん混合、水痘、ヒトパピローマウイルス感染症、ロタウイルスなどがあります。「任意接種」にはおたふくかぜ、インフルエンザ、髄膜炎菌などがあります。「定期接種」ワクチンも接種期間を過ぎれば「任意接種扱い」となります。任意接種も大切な予防接種です。おたふくかぜで難聴に苦しむ子どもや 大人もいらっしゃいます。予防接種をお勧めします。

(2)どのワクチンから接種を始めればよいでしょうか

どのワクチンも接種時期が来たらすみやかに接種するようにしましょう。ロタウイルスワクチンは生後6週から接種可能ですが、「ワクチンデビューは生後2か月の誕生日」として、四種混合、B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌とロタウイルスワクチンを生後2か月より開始するケースが多いようです。5か月よりBCG、6か月より日本脳炎、1歳になったら麻しん風しん(MR)混合、水痘、おたふくかぜワクチンを接種しましょう。

(3)同時接種は安全でしょうか

一回の接種機会に複数のワクチン接種を行うことを同時接種といいます。複数のワクチンを同時接種しても、それらの有効性や安全性に問題ありません。早く免疫をつけ、赤ちゃんを守れることが最大のメリットです。

(4)どのようなスケジュールがよいでしょうか

たくさんの予防接種があります。同時接種をうまく活用した接種スケジュール作りについては、かかりつけ小児科医にご相談下さい。

(5)最新情報はどんなものがありますか。

百日咳対策として年長児への三種混合、ポリオ対策として年長児へのポリオワクチン追加接種を日本小児科学会は推奨しています。

保護者の「ワクチン接種歴」はいかがでしょうか。成人の麻しんや風しん流行、子どもからおたふくかぜをもらうケースもみられます。是非、この機会に保護者自身の母子手帳など「予防接種の記録」を確認してみましょう。小児科医は、子どもと保護者含めたご家族の健康を願っています。



一口メモ

おりもの

女の子は、おむつや下着に黄色から薄緑色のおりものがついていたら、外陰部から細菌が入って外陰膣炎をおこしています。

ぬるま湯でこまめに洗い清潔に保つだけでもよくなることはありますが、抗生剤の軟膏を塗ったり、炎症がひどいときは抗生剤の飲み薬が必要になります。

何度も繰り返すことがあるので、陰唇の間、膣の入り口など閉じているところの中もきれいに洗い流して、水気を拭き取っておくことが大切です。うんちの拭き残しにも気をつけましょう。